KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

キタのまちのニュースレター

No.12 2024 春-夏号

会館インタビュー

こども和太鼓チーム「雅っ鼓」

本部長：内田　邦子

北区民カーニバルで例年披露されている和太鼓演奏はご存知でしょうか。通う学校や学年も異なる北区の小学生らによる、一体感のある演奏が会場を盛り上げるイベントです。今回はその講師を務めながら、大人チーム『和太鼓雅』と子どもチーム『雅っ鼓』のトップを務める内田さんにお話を伺います。

インタビュアー：内田さんはどのような経緯で和太鼓を始められたのでしょうか

内田さん：「和太鼓に触れたのは、自分の子どもが通っていた保育園のPTA行事が一番最初なんですよ。それが楽しくて親同士で集まろうという話になり〝和太鼓雅〟ができました」

イ：ではそこから独学で勉強されたんですね。

内：「初めの何年かは公演をみたり、習いにいったりしていました。そうやって活動するうちに、連れてた子どもたちが「太鼓をしたい」と言うようになり〝雅っ鼓〟ができました」

イ：その後は寝屋川市を拠点にしていたとのことですが、北区で活動するきっかけはなんでしょうか

内：「別の地域のお祭りで演奏していたとき、見ていた北区の人から『うちでもやってほしい』と言われたんです。それから北区民カーニバルに参加したら、〝雅っ鼓〟みたいな子どもチームに入りたいと思う人がたくさんいたので、〝雅っ鼓〟の北支部ができました」

イ：今の小学生を募集する形は、その時にできたんですね

内：「それから18年くらい参加してますけど、区民カーニバルで演奏した子は、その後〝雅っ鼓〟に入る人も多いですね」

イ：区民カーニバルと〝雅っ鼓〟さんでは練習方法にどのような違いがあるのでしょうか

内：「区民カーニバルの講習会では、とにかくリズムを覚えてもらいます。ドンドコとかリズムを口で言ってから叩くんです。子どもは吸収が早いのと、みんなで練習すると、周りに合わせて叩くので、自然と叩けるようになります。〝雅っ鼓〟では基礎打ちを大事にします。基礎ができたら大抵のことはできるから重点的にやりますね」

イ：なるほど。

内：「あとは礼儀作法も教えますね。〝雅っ鼓〟でイベント参加をするときは、チームのハッピや衣装を来て会場に行くので、みんな名前を背負っていますからね」

イ：確かに和太鼓の演奏をみると動きを揃えたり、立ち位置が入れ替わったり、チームワークが大切なように感じます。そうして連帯感を身に着けていくんですね。

内：「そうですね。カーニバルの講習会でも得意な子と苦手な子がいますが、みんなで一緒にやっていると真似ができたり、上の子が下の子を面倒見てくれたりして、和太鼓のいい面だなと思います」

イ：通う学校や学年が違っても、太鼓で繋がれるんですね。すごいことだと思います。それでは最後に読者へメッセージをお願いします。

内：「親御さんは、子どもが興味をもって演奏できる機会にはぜひ叩かせてあげてください。小学生のころにやったなっていう体験だけでもいいんです。日本の伝統楽器なんでね。海外に行って〝日本にはどんなものがある？〟という質問にも〝和太鼓がある〟って言えますからね（笑）区民カーニバルは初心者でも大丈夫なので、ぜひ参加してみてください」

こども和太鼓チーム『雅っ鼓』北支部

■対　　象：小・中学生（未就学児は要相談）
■場　　所：大淀コミュニティセンター
■曜日・時間：木曜　18時～19時30分（月2～3回）
■参加に関するお問い合わせ：雅っ鼓　本部
TEL：090-8752-0336（内田）　FAX：072-829-4461
Mail：npo.gamu@nifty.com

大淀＆北区民センター便り

“アロハ”に込められた意味

3/24（日）北区民センターで『マナビバフラカンファレンス』が開催されました。フラをきっかけに新たな出会いや発見を生みだす学びの場として開かれ、今回で第３回を迎えます。今年は４つのフラ教室が登場し、“ALOHA（アロハ）”を多様に表現したフラを披露。最後はディズニー映画『リロ・アンド・スティッチ』に登場した楽曲『アロハ・エ・コモ・マイ』を観客と踊りフィナーレを締めくくりました。

本イベントで注目すべき点は “ALOHA”の意味の豊富さでした。“こんにちは”や“こんばんは”といった挨拶の他に、“愛”や“祈り”などの意味もあるそうで、ハワイ語の辞書には30以上の英訳があるとか。その多種多様な意味を、踊りの中でさまざまな形に表しており、フラの表現力の高さに驚かされます。

またハワイ州法では、“アロハスピリット”なるものが定義されており、ALOHAの５つのアルファベットがそれぞれの価値観を表していると言います。

A akahai　思いやり、優しさ
L lōkahi　調和、ハーモニー
O ‘olu‘olu　心地よさ
H ha‘aha‘a　謙虚さ
A ahonui　忍耐強さ

これらは自身の平穏を保つことにも繋がり、それによって相手を尊重し、思いやることができるということを伝えているそうです。人と人とのコミュニケーションについての哲学的な考えと、華やかなフラのパフォーマンスが気軽に楽しめるイベント。次回はぜひ参加して、その一部を感じ取ってみてください。

当日の様子はこちらから

X（旧Twitter）　Instagram

見慣れた風景・コミュニティの磁力

移ろう風景・かわらぬ美

キタのまちのニュースレター 編集室

美術表現に現代アートというジャンルがあるらしい。それが、老若男女分け隔てなく人気を博し、万国共通のアートな世界を醸し出したりすると、まち全体に楽しみの機運が巻き起こり、イベントとして、地域全体が潤う。

ただし、人気作家にアート制作を依頼すれば、それ相当のコストがかかるし、逆に、コストを抑え、モノマネ的作品に頼ってしまうと「いったいこれは何でっか？」と、スルーされてしまう。……なかなか難しい。

アートの世界に限らず、時代と時代の境目では、必要とされる対象物が大きく変化する。で、そのことが一気呵成に進んでしまうと「まちの景色」を一変させることがある。

だから！……移ろう時代に堂々と、その存在を語りかけてくれる表象物には頭が下がる。

写真は北区中之島「なにわ橋」の鋳物製の欄干。このデザイン性が素晴らしい。大阪市章、みおつくし（澪標）がモチーフ。澪標は水辺の安全航行の目印で、大阪繁栄の表象物でもある。言ってみれば、必要とされてきた目印が機能化され、ま～るくデザインされ、まちの風景に育つ。おまけに、一つは斜めになり、自分から階段に寄り添う。

どことなくユーモラスで、それでいて美しい。大阪ど真ん中、中之島に架かる難波橋が美しい。

キタ歩き日本旅

宮城県の巻

全国約半数の道府県事務所が北区「大阪駅前ビル」に！ 旅の玄関口みたい！！ それが〝キタ歩き日本旅〟です。

きかは便郵

UNION POSTALE UNIVERSELLE.
CARTE POSTALE

平成元年ころに買った炊飯器なの。じいちゃん、ばあちゃん、わたし、お父さんと息子二人に娘一人の７人だもの。だから８合炊き買ったの。そんでも足りないくらいでね。

今はね、お父さんと二人だけど、お盆とお正月は子供たち、孫連れて帰ってくるから、やっぱり８合炊きは必要なの。

普段は二人分だけど、夜の分まで朝に６合、まとめて炊くの。

裏の竹やぶで炊飯器見つけて、フタ開けてみたら、真っ黒いヘドロが詰まってたの。それ捨てたらね、一緒に真っ白いごはんが出てきたのね・・・夜の分、残してたの・・・涙出たよ。

2011. 3. 11～

見てきたように

完成した中之島美術館が大人気。そこで……宮城県大阪事務所を訪ね「みやぎ旅まっぷ」を手にし、宮城県では「どんな美術館（および博物館）」があるか？……この全県マップで美術館の存在を確かめた。と、宮城県北部・気仙沼市に気になる美術館発見！その名はリアス・アーク美術館。

ビックリどっきり、それでいて「人肌の作風」で有名な石山修研究室が設計を手掛け、平成６（1994）年10月の開館だそうだ。（阪神淡路大震災の前年）

やっておられることを公式ホームページで見て、「目が点」になった。以下は、この美術館の許可を得、その志のごく一部を抜粋させていただいた。（写真展示・同）

当館では震災発生と同時に独自の調査記録活動を開始し、2011年3月23日以降は、気仙沼市、南三陸町の震災被害記録、調査担当という特命を受け、2012年の12月31日までその任に当たりました。この活動の目的は単に震災被害を記録することではなく、これまで築き上げられてきた地域の最後の姿を地域再生の為に記録することでした。

一般に災害の記録は「どう壊れたのか」という視点で行われますが、当館では「まず、何が壊れたのか」そして「なぜそれは壊れなければならなかったのか」ということに主眼を置いて記録、資料収集活動を行いました。

現在、被災地の人々は震災とその前後の「記録」や「記憶」を残したいと願い、顕在化させるための試みを重ねています。「客観的事実としての記録」は、膨大な視聴覚資料として既に存在しています。しかし「主観的事実としての記憶」は未だに人々の体内に在って表現されたものはごく一部と考えられます。

当館では「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示を、未だ語られていない震災の記憶を引き出すための「呼び水」と位置付けています。単に資料を見る場としてではなく、自分自身の「震災の記憶」を呼び起こし、語り合う場にして頂けることを期待しています。

確かに、現象としての天変地異を訴えかける優れた博物館はこれまでにもあり、関西にもある。ところが、人の心象風景、その記憶の「呼び水となる！」……それを「言い切る」美術館があったとは！……見てきたわけではないが、見てきたような感動を受けた。ぜひ、まずは、リアス・アーク美術館のホームページを見てみてください。

宮城県大阪事務所
北区梅田1-3-1-900 大阪駅駅前第１ビル９階　☎06-6341-7905（開館 平日９時～ 17時 / 土日祝・年末年始は休み）

浪花百景歳時記

季節を問わず世界一、アツい場所！

第五景　「堂じま米市」　歌川国員画

上方落語「米あげ笊」でも知られる堂島米市場の賑わいを、大阪らしいユーモアとエスプリに富んだ構図にまとめます。足下に落ちた扇子と煙管入れは、歌舞伎十八番「助六」の名場面に見立てたとする説が最近提唱されました。

道行ナビゲーター　大阪大学名誉教授　橋爪節也

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員
波瀬山祥子

天下の台所と謳われた大坂のシンボル・堂島米市を描きます。そう、前回のコラム「大江ばしより鍋しま風景」で、梅柄のパッチをはいて大江橋を渡る米商人が向かう先です。押しあいへしあいする商人の足元だけを描いて、米市の血気盛んな競の様子を伝えます。足首まであるつなぎのパッチの男や、足袋のみの男、衣服の柄や色もさまざま。「ああっ！しまった……扇子が！」と足元に落ちた扇に手が伸び、煙管入れも転がっています。一息ついて再び競に参入しようと石段を登る一人は着崩れして片腕を出し、一人は手ぬぐいを肩にかけ顎を突き出し、競り市を睨んで気合いを入れます。

大坂の米市は、淀屋橋南詰にあった豪商・淀屋の店先に商人が集まったことを起源とします。貞享二年（一六八五）に河川工事で堂島新地が整備されるとそこに移転し、享保十五年（一七三〇）以降は米相場を安定させるという名目で幕府公認の市場となりました。米市なので、実物の米俵を扱っていたと思われがちですが、実際には「米切手」という諸藩が発行した証券を競り落とす場でした。「米切手」を使えば、米を移動させる手間や保管場所の心配もなくなります。合理主義の大坂商人らしい発想です。堂島米市の優れたところは、現物取引（「正米商い」）のみならず、世界に先駆けて「帳合米商い」つまり、先物取引を行なっていた点です。売り手は米や蔵がなくとも、買い手は十分な資金がなくとも、思惑次第で米を売り買いすることができ、相場の動きを予想できれば、大儲けも夢ではありませんでした。富豪にならんと米商人が熱狂する理由がわかります。堂島米市の相場は全国の米相場の基準となり、その日の取引情報は米飛脚や、旗振り通信によって瞬く間に各地へ伝達されました。

帳合米商いは、一年を春、夏、冬の三期に分けて行われ、朝の八時から昼休憩を挟んで、午後二時の「大引け（＝一日の最後の売買）」の頃には「鼎の沸くが如し」（『浪華の賑ひ』）と、市場中が熱気と喧噪で煮えくり返ったと伝えられます。競は符丁（＝ハンドサイン）で行われ、手のひらを相手に見せれば「売り」、自分に向ければ「買い」で、指で数を示したといいます。扇子を拾う手は競のサインを暗示するほか、様々な意味が込められているかもしれません。

市場は幕府の弱体化とともに衰退し、明治二年（一八六九）に閉鎖されました。その後、堂島米会所として再興され、明治十一年（一八七八）五代友厚が大阪株式取引所を対岸の北浜に設立、現在は、株式会社大阪取引所となって堂島米市の精神を受け継いでいます。

編集後記

先日、施設名の〝淀〟の漢字を説明する際に困ってしまいました。とっさに「淀川の淀」と答えたのですが、地元の人でないと分からない単語で伝わりませんでした。調べると地名以外だと、〝水のよどみ〟（澱と同じ意味を持つそうです！）や豊臣秀吉の側室の浅井茶々の通称〝淀殿〟が有名どころのようです。でも一番は「さんずいに定める」というように、分解してしまうのが良いかもしれません。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室
■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会
■発　行　月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター　〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp
大淀コミュニティセンター　〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp